

報道各位

No.20-000159T

2020年2月26日

ヒューマンタッチ株式会社

ヒューマンタッチ総研が独自分析 国土交通省の「2020年度予算概要」から見る建設業の今後 ～防・減災、インフラ整備の予算が前年度を上回り、建設市場は堅調に成長見通し～

ヒューマンホールディングス株式会社の事業子会社で、人材紹介事業を行うヒューマンタッチ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役:高本和幸、以下「ヒューマンタッチ」)が運営するヒューマンタッチ総研は、国土交通省の「2020年度予算概要」などから建設業界の今後についてまとめました。防災、減災対策や老朽化したインフラ対策を中心に前年度を上回る予算が投入されており、建設市場は堅調に推移する見通しです。

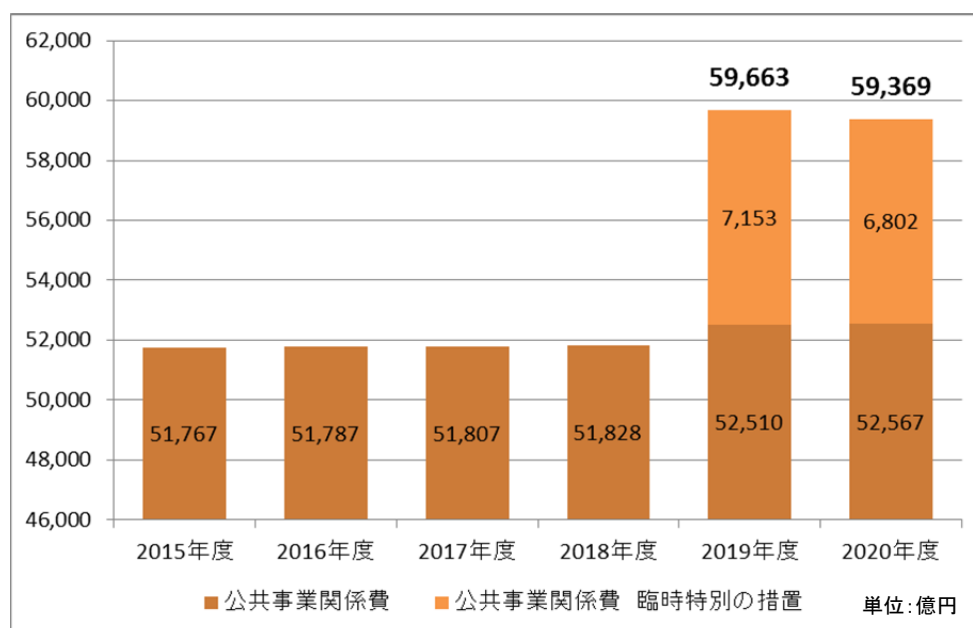
【本件のポイント】

- ・防災、減災対策と老朽化したインフラ対策を中心に前年度を上回る予算を投入
- ・建設業の人材確保、人材育成への積極的な支援を維持
- ・2019年11月の手持ち工事高は前年同月を上回っており、市場は堅調に推移する見通し

■2020年度の公共事業関係費は5兆9,369億円となり前年度と同水準を維持

国土交通省の「2020年度予算概要」によると、公共事業関係費は5兆9,369億円(前年度比99.5%)となり、防災・減災、国土強靱化3カ年緊急対策を集中的に実施するための臨時・特別措置が別枠で6,802億円積み増しされて大幅な増加となった前年度とほぼ同水準となりました。(図表①)

【図表① 国土交通省の公共事業関係費の推移(単位:億円)】



出典:国土交通省「予算概要」各年度版より作成

■防災・減災対策とインフラ老朽化対策に前年を上回る予算を投入

建設業に関連する主な予算項目を見ると、防災・減災対策と老朽化したインフラ対策を中心に前年度を上回る予算が投入されています。(図表②)

具体的には、「水防災意識社会」の再構築に向けた水害対策の推進に6,247億円(前年度比104%)、集中豪雨や火山噴火等に対応した総合的な土砂災害対策の推進に1,309億円(同102%)、将来を見据えたインフラ老朽化対策の推進に6,901億円(同141%)など、前年度を上回る予算が投入されています。

また、整備新幹線の着実な整備に804億円(同101%)、効率的な物流ネットワークの強化に4,304億円(同104%)など、将来の成長に向けた分野においても一定水準の予算が確保されています。

【図表② 建設業に関連する主な予算項目・予算額・概要一覧】

予算項目	予算額(前年度比)	概要
地域における総合的な防災・減災対策、老朽化対策等に対する集中支援(防災・安全交付金)	1兆388億円(100%) *うち臨時・特別の措置 2,541億円	頻発する風水害・土砂災害や大規模地震・津波に対する防災・減災対策、インフラ長寿命化計画を踏まえた老朽化対策など地域における総合的な取り組みを集中的に支援する。
「水防災意識社会」の再構築に向けた水害対策の推進	6,247億円(104%) *うち臨時・特別の措置 1,646億円	近年多発する水害を踏まえ、事前防災が重要との観点等から社会全体で災害リスクに備えるハード・ソフト一体となった防災・減災対策を強化する。
集中豪雨や火山噴火等に対応した総合的な土砂災害対策の推進	1,309億円(102%) *うち臨時・特別の措置 324億円	集中豪雨や火山噴火による土砂災害に対して、事前防災等を重視し、ハード・ソフト一体となった総合的な対策を推進する。
将来を見据えたインフラ老朽化対策の推進	6,901億円(141%)	インフラ長寿命化計画に基づき、将来にわたって必要なインフラの機能を発揮し続けるための取組を推進する。
整備新幹線の着実な整備	804億円(101%)	開業目標時期での整備新幹線の確実な開業に向け、着実に整備を進める。
効率的な物流ネットワークの強化	4,304億円(104%)	大都市圏環状道路の整備やピンポイント渋滞対策等を合わせて推進し、交通渋滞の緩和等による迅速・円滑で競争力の高い物流ネットワークの実現を図る。
成長の基盤となる社会資本整備の総合的支援	7,627億円(88%) *うち臨時・特別の措置 349億円	将来の成長の基盤となる民間投資・需要を喚起する道路整備やPPP/PFIを活用した下水道工事等、地方公共団体等の取り組みを総合的に支援する。

出典：国土交通省「公共事業関係予算のポイント」より作成

■建設業の人材確保、人材育成に前年を上回る予算を確保

次に、国土交通省と厚生労働省が連携しておこなう「建設業の人材確保・育成に向けて(2020年度予算案の概要)」を見ると、建設産業の働き方改革の推進に1.46億円(前年度比140%)、建設事業主等に対する助成金による支援に61.8億円(同105%)、ハローワークにおける人材不足分野に係る就職支援の拡充に38.6億円(同113%)と、前年度を上回る予算が投入されています。

今後についても、建設業の人材確保、人材育成への積極的な支援が維持されそうです。(図表③)

【図表③ 建設業の人材確保・育成に向けた予算の概要】

予算項目	予算額(前年度比)	概要
建設産業の働き方改革の推進	1.46 億円(140%)	適正な工期設定・施工時期の平準化等による働き方改革の推進、建設技術者の働き方改革の推進、建設業許可等の電子申請化に向けた環境整備を継続しておく。
建設事業主等に対する助成金による支援	61.8 億円(105%)	雇用管理改善や人材育成に取り組む中小建設事業主等に経費や賃金の一部を助成する。
ハローワークにおける人材不足分野に係る就職支援の拡充	38.6 億円(113%)	雇用吸収率の高い分野へのマッチング支援を強化するため、人材確保支援の総合窓口となる「人材確保対策コーナー」を拡充し、関係団体等と連携した人材確保支援を実施する。

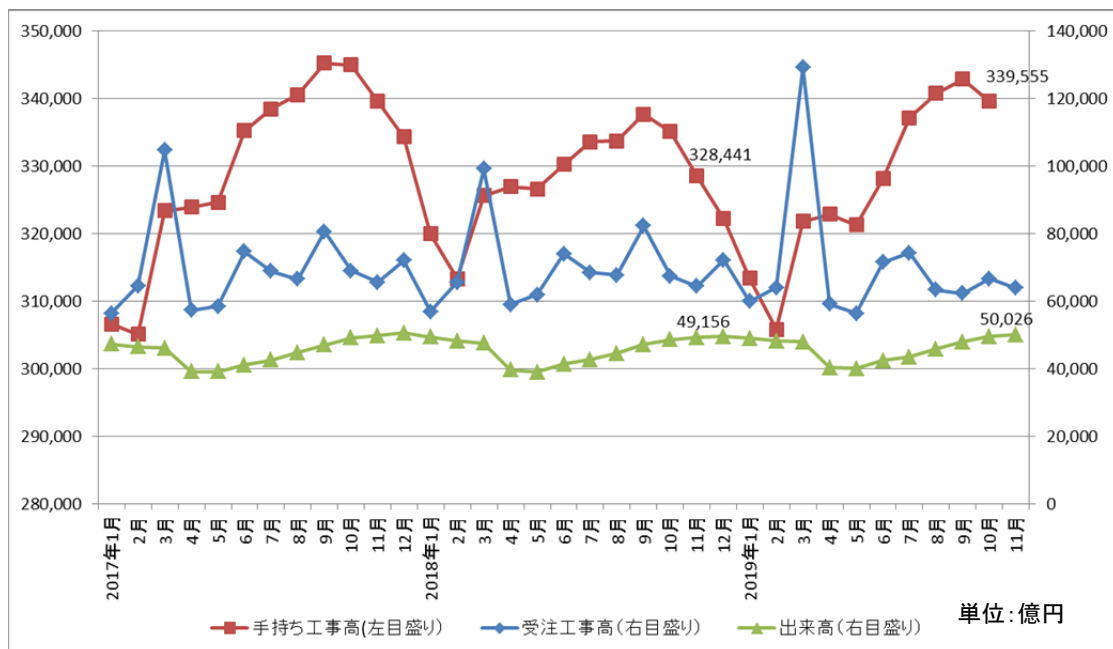
出典：厚生労働省・国土交通省「建設業の人材確保・育成に向けて(2020 年度予算案の概要)」のポイントより作成

■2020 年度も建設市場は堅調に推移する見通し

国土交通省の統計資料から、建設工事の出来高、手持ち工事高、受注工事高の推移を見ると、2019 年 11 月の出来高は 5 兆 26 億円で、前年同月の 4 兆 9,156 億円を上回っています(図表④)。2019 年の出来高は、好調であった 2018 年とほぼ同じ水準で推移しており、迫込みに入った東京オリンピック・パラリンピック関連の建設需要の継続を背景に、2019 年の建設市場は堅調に推移したと言えます。

また、手持ち工事高(受注した工事金額のうち、その時点で工事が終わっていない金額)については 2019 年 11 月時点で 33 兆 9,555 億円となり、前年同月の 32 兆 8,441 億円を上回る高水準となっています。また、2019 年の受注工事高はほぼ 2018 年並みの高水準で推移しており、中長期的にも建設市場は堅調に推移すると考えられます。

【図表④ 月別の出来高・手持ち工事高・受注高の推移(単位:億円)】



出典：国土交通省「建設工事受注動態統計調査」「建設総合統計」より作成

■ヒューマンタッチ総研所長・高本和幸(ヒューマンタッチ代表取締役)のコメント

2020年度予算を見ると、防災・減災対策と老朽化したインフラの整備に引き続き大きな予算が投入される方向性になっています。また、手持ち工事高も豊富であり受注高も高水準であることから、東京オリンピック・パラリンピックが終了する2020年9月以降についても、建設市場は堅調に成長するのではないかと考えられます。

また、建設業における人材不足は大きな政策課題だと考えられており、人材確保、育成を支援するための予算も前年度を上回る規模で投入されています。

このような状況を鑑みると、2020年度についても、堅調な建設市場を背景に、人材不足への対応が建設業各社にとっての大きな課題になると考えられます。



会社概要

ヒューマンタッチ株式会社

- 代表者:代表取締役 高本 和幸 ●所在地:東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 1F
- 資本金:1億円 ●コーポレートサイト URL:<https://human-touch.jp/>
- ヒューマンタッチ総研サイト URL:<https://kensetsutenshokunavi.jp/souken/>

＜このレポートに関するお問い合わせ＞

ヒューマンタッチ株式会社 ヒューマンタッチ総研担当
TEL:03-6872-1027 E-mail: htsouken@athuman.com

＜このリリースに関するお問い合わせ＞

ヒューマングループ 広報担当:外川まで
TEL:03-6846-8002 FAX:03-6846-1220 E-mail: kouhou@athuman.com